

日本讀本

第四

水繩尋常小學校		明治
保存期	讀第一四號	年
明治	月	月購求
年	迄	

T1A3
10
Sh55a

濟定檢省

新學文部

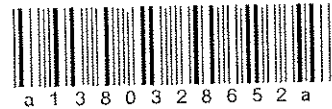
印

日本讀本 第四

新保磐次著

東京金港堂藏版

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 2 8 6 5 2 a

福岡教育大学蔵書



瀬戸物

小兒が外ニ遊ブ時ハ上ヲ煉リテ、様様ノ物ヲ
 作ル。或ハ犬ノ形ヲ作り、或ハ鳥ノ形ヲ作り、或
 ハ茶碗、土瓶等ノ形ヲ作ル。

小兒遊ビ終ハリテ家ニ歸リ、犬、鳥、茶碗、土瓶ハア
 ハレニモ獨外ニ殘ル。天氣好ケレバコレ等ノ
 物次第ニ干キテ、漸堅クナル。若コレヲ拾ヒ歸
 リテ火ニ燒カバ、甚堅キ物トナルベシ。瀬戸物
 ヲ作ル仕方モ大抵カクノ如シ。

瀬戸物ヲ作ルニハ好キ粘土ヲ煉リテ茶碗、皿、

鉢、蓋、德利ナドノ形ニ作り日ニ干カレテ堅マラシム。コレヲ爐ニ入レ、強ク焼キテ、甚堅クナシタルハ素焼キナリ。次ギニ上藥ヲ塗リテ、又爐ノ中ニ焼ケバ、美シクシテ、光リアル者トナル。諸君ハ茶碗、德利ノ底ヲ見シナラン。其ノ色ハ光リナクシテ、コレヲ撫ツレバ粗キヲ覺ユ。コレハ上藥ノ掛カラザル所ナリ。上藥アル所ハ光リアリテ、コレヲ撫ツレバ滑カナリ。

上藥ノヒニ様様ノ繪ヲ畫キテ、又爐ノ中ニ焼ク時ハ花鳥、松竹、山水ノ類、美シク現レテ、全キ瀬戸物トナル。或ハ素焼キニ繪ヲ畫キ、其ノ上ニ上藥ヲ掛ケテ焼キタルモアリ。瀬戸物ヲ焼キ物又ハ陶器ト云フ。陶器ヲ作ル所多ケレドモ尾張ノ國ノ瀬戸村ニテ古ヨリ多ク作り出ダス故ニ、焼キ物ヲ皆瀬戸物トハ云フナリ。

潮

二人ノ幼キ娘濱邊ニ遊ビテ、奇麗ナル貝殻ヤ小石ヲ見出ダシタリ。貝殻ニハ蛤、あさり、いたら貝、其ノ外名モ知レヌ美シキ貝アリ。石ニハ水

晶ノ如クスキトホルモノアリ、瑪瑙ノ如ク赤キ
縞アル者アリ、鼈甲ノ如ク黄色ニスキトホル者
アリ。二人ハ餘念ナク拾ヒテハ袂ニ入レ、拾ヒ
テハ袂ニ入レ、思ハズ沖ニ向カヒテ一町餘リモ歩
ミケリ。

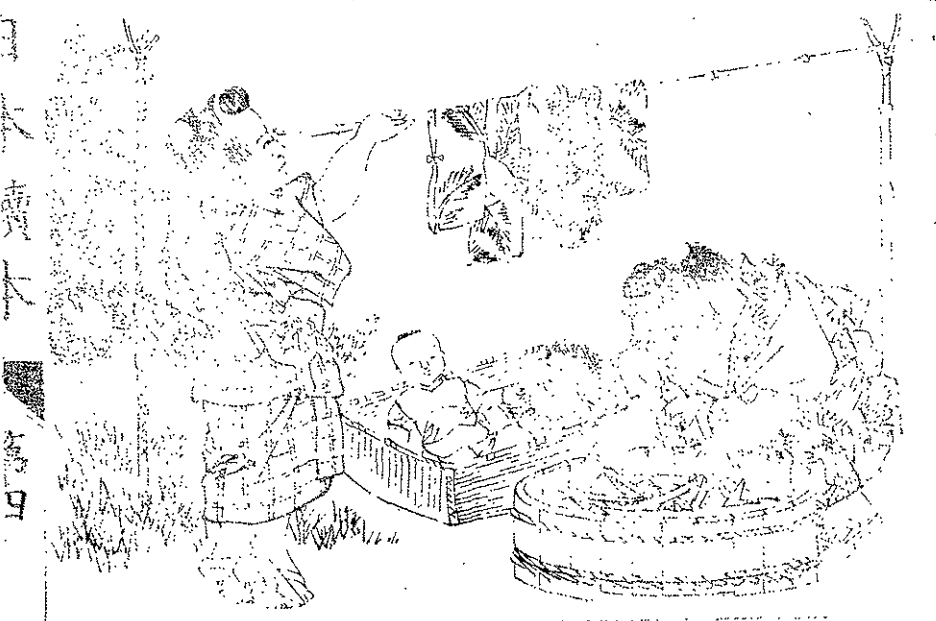
其ノ時海ノ潮漸増シテ二人ノ足ヲ浸セリ。
二人ハ驚キテ元來シ道ニ引キ返シケレドモ、
潮ノ増スコト甚速ニシテ見ルガ内ニハヤ著物
ノ裾ヲ浸シカバ令ハ一足モ進ミ得ス只聲ヲ
アゲテゾ泣キタリケル。

コノ時兩三人ノ男ノ兒同ジクココニ遊ビ居
タルガ急ギ走り來リテ一人ハ姉ヲ背負ヒ一人ハ
妹ヲ抱キテ元ノ濱邊ニ連レ歸リキ。コレヲ見
レ母ノ喜ビハイカナリケン、兒ドモノ親切ヲカ
ヘスガヘス感謝シケリ。

母ハ二人ヲ連レテ家ニ歸リ、著物ヲ著替ヘサ
セケルニ袂ニハ猶多クノ小石ト貝殻アリキ。
母ハ一一其名ヲ教ヘ、且云ヒケルハ貝ノ中ニ
上等ノ食物トナルハ鮑ト蠔ナリ。鮑ト蠔ハ海
ノ岩ノ上ニ付ク。鮑ノ殻ハ奇麗ナル故ニ青貝

ノ細工ニ用ヒ、又ハ洋服ノぼたんニ用ヒラル。
 蠣ノ殻ヲバ焼キテ藥トシ、又ハ胡粉ノ代ハリニ用
 フ。其ノ外蛤、あさり、蛸等ノ殻モ亦焼キテ胡粉
 トナシ或ハ白墨トナス。母重子テ云ヒケルハ
 御身等ハ貝ノ名ト用ヒ方ノ外猶大切ナル事ヲ
 習ヘシ。人ノ親切ノ有リ難キヲ忘ルナ。潮ノ
 急ニ増スコトヲ忘ルナ。潮ハ一日ニ二度ビ満
 チ二度ビ干クモノナリ。今日ハ満月ノ日ナレ
 バ、満ツルモ早く、干クモ早シト。

洗濯



才仲才末ト云フ二人
 ノ娘石鹼ト糊ノ母ニ求
 メケレバ母ハ何ニ用フ
 ルカト問ヒケル。人形
 ノ着物が誠ニ誠ニ汚ク
 ナリタレバ洗濯シテ糊
 ヲセント思フナリト答
 ヘケリ。
 母ハ兩人ノ娘ニ教ヘ
 ケルヤウ御身等安ニ石

鹼ヲ用フルナ。才仲ガ人形ノ上著ハ藍縞ニテ、
襦袢ハ紫縮緬ナレバ、石鹼ヲ用ヒテモ差支ヘナ
シ。才末ガ人形ノ襦袢ハ緋縮緬ナレバ、石鹼ニ
テ洗フナ。紅モ茜モ石鹼ニテ洗ハバ色替ハルベ
シ。赤キ物ヲ洗フニハ常ニ心セヨト。

才末ザラハアク水ニテ洗ハント云ヒケレバ
母重子テ云ヒケルヤウアク水ハ石鹼ヨリアレ。
アク水ニテ洗ハバ紅ノ色青黒クナラシ。油
ミタル物ノ外ハアク水ニテ洗フナ、只清キ水ニ
テ洗フベシ。サラハ盥ヲ御身等ニ貸サント。

兩人ハ喜ビテ袖ヲ後口ニ結び合ハセ相向カヒ
テ洗濯セリ。二ツノ人形ハ傍ニ在リテ洗濯ヲ
ナガムルガ如シ。

才末ハ人形ノ裸ナルヲ見テ云フ「アア、御身等
ハサゾ寒カラシ。著物ハ今直ニ干クベシ。姉
上、著物ノ干クマデ風呂敷キヲ掛ケテハイカニ。
姉上ノ本ヲ包ミタル風呂敷キヲ暫貸シ給ヘ。」

蜂。

或學校ノ教師一人ノ生徒ニ向カヒテ「君ノ家
ヨリコノ學校マデ幾町アルカ」ト問ヒレニ「私ノ

家ヨリココマデハ五町アリ、然レドモ蜂ノ飛ブ道ニシテハ四町ニ足ルマヅト答ヘケリ。コノ生徒ハ賢キ子ナリ。汝ハコノ答ヘノ心ヲ知ルリヤ。

蜂ハ必真直ニ飛ブモノナリ。コノモノ飛ビ來リテ花ノ汁ヲ吸ヒ、又己レガ巢ニ歸ルニ、少レモ曲リタル道ヲ行カズ。

蜂ハ花ノ甘キ汁ヲ貯ヘテ食物トナス。コレヲ蜂蜜ト云フ。垣ノ竹簾ノ葦ヲ折レバ、時時甘キ物ヲ見出ダスコトアリ。ツレハ小サキ蜂ノ貯ヘ置ケル蜜ナリ。

蜂ハ蜜ヲ貯フルコトヲ怠ラザル故ニ、花ナキ時ニ至リテモ食物ニ乏シキコトナシ。仲間ノ蜂ニ怠ルモノアレバ、大勢集マリテコレヲ追ヒ出ダス。

蟻

蟻モ亦勉強シテ食物ヲ貯フル虫ナリ。蟻ハ夏ノ間ニ多クノ食物ヲ集メテ、穴ノ中ニ貯フル故冬ニ至リテモ乏シキコトナシ。コノ虫ハ力甚強クシテ、能ク己レガ身ヨリ大キナル物ヲ運

ブ。コノ虫ハ意地甚強クシテ一度思ヒ立チタルコトハ決シテヤムルコトナシ。家中ニ甘キ物アル時コレヲ取ラントテ上リ來ル蟻ハ幾度掃ヒ落トシテモ決シテ止マラズ。

昔名高キ勇士アリシガ戰ヒニ打チ負ケテ百姓ノ小屋ニ隠レ忍ビ今ハコレマデト覺悟セシ折リシモ一匹ノ蟻ガ壁ニ上ルヲ見付ケタリ。

コノ蟻已レガ身ヨリ大キナル麥ヲ捧ゲテ壁ニ上リケルガ、麥重クシテ共ニ地ニ落チヌ。蟻ハ少シモ困リレ氣色ナク、再ソノ麥ヲ拾ヒテ上リシ

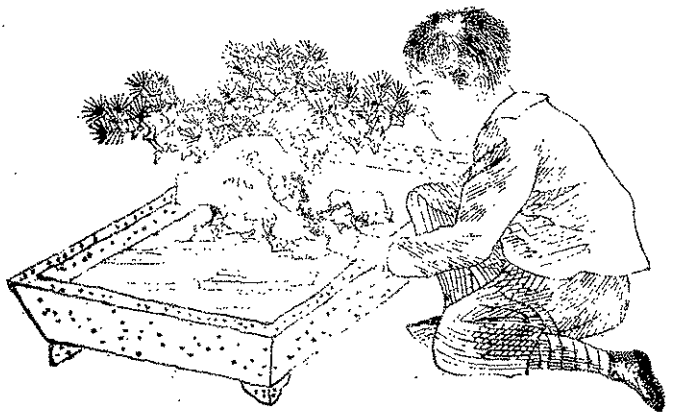
ガ、忽又落チヌ。カクトリシハ落チ落チテハ上ルコト六十九度ニシテ、ナホモルマラス七十度ニ

至リテ終ニ麥ヲ捧ゲテ目出タク已レガ穴ニ入リヌ。

勇士ハコレヲ見テスツクト立チ上ガリカカル小サキ虫ダニモカクノ如シ。マシテ六尺ノ大丈夫ヲヤ。今日汝ヨリ受ケタル教ハハ一生忘レハセジトテ勇ミ進ミテゾ立チ出デケル。

島陸岸。

水鉢ノ真中ニ岩アリテ、水ノ上ニ其ノ頭ヲ顯



セリ。鉢ハ花崗石ニテ、
 水ノ中ニハ小サキ魚遊ビ、
 岩ノ上ニハ短キ松生ヒ
 タリ。太郎ハ一鉢ヲ
 みかけノ池ト名ツケ、岩
 ヲ松島ト名ツケテ、小サ
 キ舟ヲ浮カミテ樂シメリ。
 太郎ハイカニシテカ
 ク面白キ名ヲ考ヘ出ダシ
 シカ。過ギシ日コノ家

ニ普請アリテ、壁土ヲ掘リ取りシカ、跡ニ凹キ穴
 ヲ殘シタリキ。太郎ハソノ真中ニ土ト石ヲ積
 ミ重子テ山ヲ作り、山ノ上下ニ草花ヲ植エテ遊
 ビシニ、ソノ夜大雨フリテ、穴ノ中ニ水溜マリ、山ハ
 ワヅカニ頭ヲ顯スノミナリキ。

太郎ハ一夜ノ雨ニヨリテ大切ノ庭ヲ損ゼシ
 ヲ悲シミ雨ヲ罵リテ止マザリシヲ、其ノ母教ヘテ
 曰ヒケルヤウ、太郎悲シムナ。雨ハ汝ガ庭築キノ
 手傳ヒヲナシタリ。見ヨ、コノ穴ニハ水溜マリテ
 オノヅカラ池トナレリ。山ノ頭ガ水面ニ顯レ

タルハ島ナリ、島ノ上ニハ色色ノ草花生ヒタリ。
汝ガ山ノ麓ニ植エタル草ハ今水ノ底ニアリテ
水草トナレリ。面白キ景色ニハアラズヤ。

太郎ハ初メテ大キニ喜ビ、水ノ中ニ小鮒ヲ放
チ、板切レニテ作りタル小舟ヲ浮かベサガラ、
降雨レヤ、小池ノ水ノ乾カヌ申三。ト歌ヒツツ樂シ
シガ、母ニ向カヒテ曰ヒケルヤウ、生長ノ後大キナ
ル池ヲ掘リ、大キナル鯉ヲ放チテ遊バシ。

母又曰ヒケルヤウ、汝ハ日本讀本ヲ讀ミテ湖
ト云フコトヲ學ビシナラン。大キナル湖ニハ

大抵川水流レ込ミテ、水ノ乾ク時、鯉、鯉、鯉、
鯉ヲハジメ多クノ魚ソノ中ニ住ミ、藻、蓴菜等、
水草ソノ底ニ生ズ。

汝ハ又海ト云フコトヲ學ビシナラン。海ハ
甚大キニシテソノ限リヲ知リガタシ。海ノ水
ハ塩辛クシテ鯛、鰈、比目魚等ノ海魚ソノ中ニ住
ミ、昆布、若和布等ノ海草ソノ底ニ生ズ。海ノ中
ニハ多クノ島アリ。ワレ等ガ住メル日本國モ
亦海ノ中ノ大キナル島ナリ。スベテ水ノ乘ラ
ザル地面ヲ陸ト云フ。川、池、湖、海等ハ陸ニアラ

川池湖海等ノ水ギハナル陸ヲ岸ト云フ。

汝學校ニ往キテ地理書ヲ讀ム時ニ委ニク知ル

ミシ。

太郎ハコノ話ニヲ聞キニヨリ以來早ク地理

書ヲ讀マンコトヲ願ヒ學校ニ行クコトヲ急ラ

ズ家ニ歸リテハ白山ヲ築キ池湖ヲ掘リ島ヲ作

リテ樂シムトセリ。

地圖

汝ハ茶筒ノ形ヲ知ルナラン。茶筒ヲ立テテ

横ヨリ見レハ圓キ棒ノ如シ。然レドモ茶筒ノ

上ヨリ見レバ唯圓キ板ノ如シ。汝又竹筒ヲ立

テテ見ヨ。横ヨリ見レバコレ亦圓キ棒ノ如ク

ナレドモ上ヨリ見ル時ハ唯輪ノ如ク見ユルナ

ラン。

スベテ上ヨリ見ル時ト横ヨリ見ル時トソノ

形司ジカラザルコト多シ。試ニニ屋根ニ上リ

テ家ヲ見ヨ。唯一面ノ屋根ヲ見テソノ他ヲ見

ザルベシ。カクノ如クニテ地面ノ形ヲ寫シタ

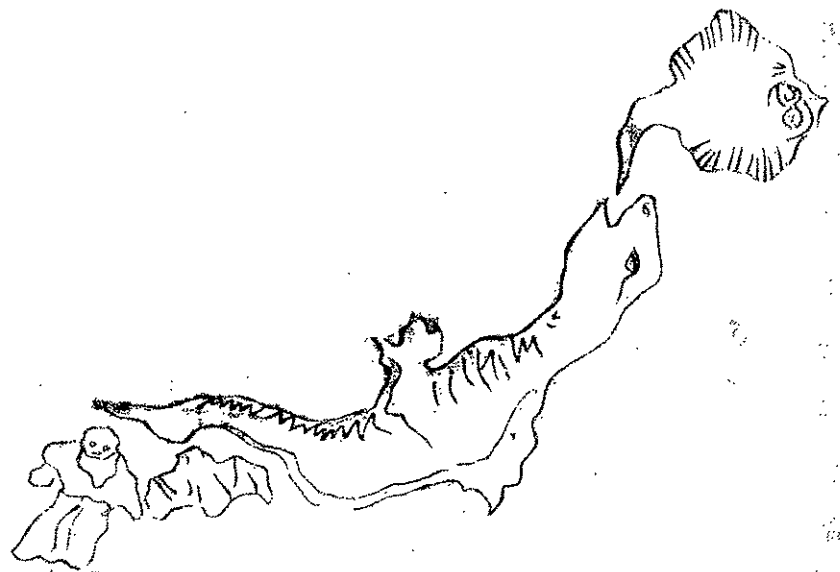
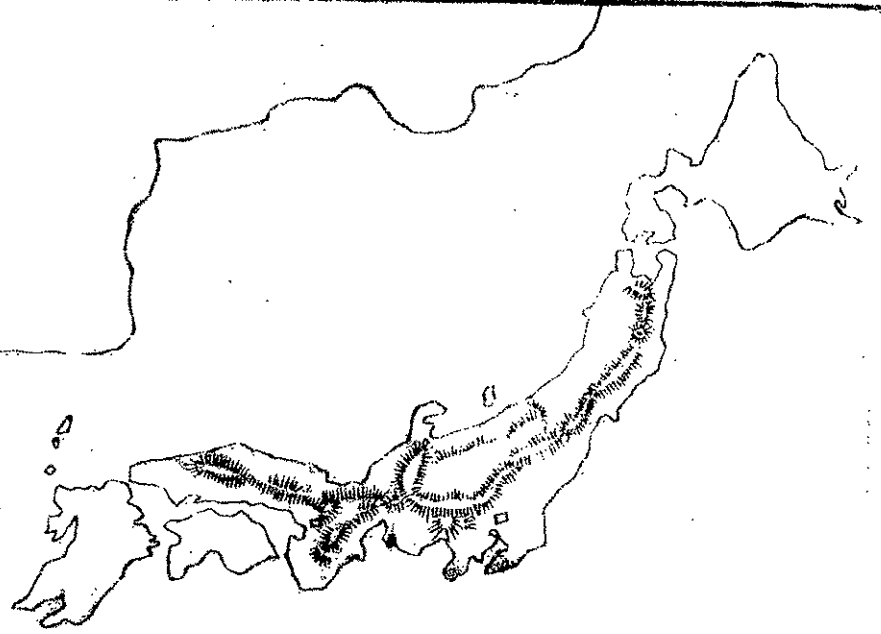
ル圖ヲ地圖ト云フ。

汝等ハ既ニ湖ト島ノ事ヲ學ビタリ。今盟ニ

水ヲ入リテ湖トシ、様様ノ形ナル石ヲノ中ニ置キテ島トセン。汝等各ソノ繪圖ヲ畫ケ。汝等繪圖ヲ畫キ終ハラバ、余ハ日本帝國ノ地圖ヲ示サン。

日本地圖。

汝等ハスベテ日本帝國ニ住ムコトヲ學ビレナラン。日本帝國ハ大キナル島ナルコトヲモ學ビレナラン。コレハ日本帝國ノ地圖ナリ。力カル形ヲナレタル島ノ上ニ、高キ山ハソバダナ、長キ川ハ流レ、草木ハ榮エ、魚鳥ハ遊ビ、吾レモ



日本地圖 第一卷 金澤

汝モ住ミ、ソノ他數モ知レザル多ク、物皆コノ上ニアリ。コノ圖ノ右ノ方ハ東ニシテ、左ノ方ハ西ナリ。南ト北ハ何レノ方ナルカ、汝等各考ヘヨ。

汝等が住メル町村ハ何レノ邊ニアルカヲ教ヘシ。汝等が知レル山川ハ何レノ邊ニアルカヲ教ヘシ。大キナル日本帝國ヲコノ小サキ紙ニ畫キタレバ、汝等ノ町村ハ粟粒ヨリモ小サナラン。大キナル町村モ唯針ノ先程ナルベシ。川ハ毛ヨリモ細ク、山ハ米粒ノ如クナルベシ。故

ニ委レキ形ヲ、畫キガタシ。

日本帝國ハ四ツノ大キナル島トアマタノ小サナル島島ナリ。ソノ最大キナル島ハどかげガ口ヲ開クニ似タリ、コノ島ヲ本島ト云フ。本島ノ北ニあかひひノ如キ島アリ。本島ノ西ニ人ノ踊ルガ如キ島アリ。南ノ方ニかふもりノ如キ島アリ。

あかひひノ如キ島ハ北ニアリテ、海ヲ經テ行ク處ナレバコレヲ北海道ト云ヘリ。かふもりノ如キ島ハ四ツノ國ニ分カレタレバ、四國ト云フ。

人ノ踊ルガ如キ島ハ九ツノ國ニ分カレタレバ九州ト云フ。

日本地圖ノ二。

地圖ノ中ニハ菊ノ花ニ似タル紋多ク並ビク
リ。コレハ山ノ上ヨリ見タル略圖ニシテ紋ノ
真中ハ山ノ頂キナリ。カク山山ノ續キタルヲ
山脈ト云フ。

汝等ガ知ル如ク東京ハ日本ノ都ナリ、富士山
ハ日本一ノ高山ナリ。どかげノ右ノ脇ニ四角
ノ印アルハ東京ノ地ナリ。東京ノ西ニ大キナ

ル菊紋アルハコレ富士山ナリ。富士山ノ西ニ
東ニ山脈續キテ各本島ノ端ニ至レリ。どかげ
ノ腰ノ邊ニ四角ノ印アルハ京都ノ地ナリ。大
坂ハ京都ニ近クシテ海邊ノ都會ナリ。

汝等ハ亦上野ノ富岡山城ノ宇治尾張ノ瀬戸
ト云フ名ヲ覺エタルナラン。上野ノ國ハ東京
ノ北ニアリ、宇治ハ京都ト同國ナリ。尾張ノ國
ハ大抵富士山ト京都ノ真中ニアタル。富岡宇
治瀬戸ノ産物ハ各何物ナルカ、汝等ハ善ク覺エ
タルナラン。東京ヨリ京都マデハ百三十里計

リアリ、モレ歩ミテ行カバ大凡二週間ヲ尋スベシ。北海道ヨリ九州ニ行カンニハ殆二個月ヲ費スベシ。

北海道ノ東北ニ千島ノ島島相連リ、九州ノ西南ニ琉球ノ島島相連ル、コレ皆日本ノ内ナレドモ今委クハ畫カザルナリ。

汝等再地圖ヲ見ヨ。西北ノ方ニアタリ、海ヲ隔テテ大キナル國アリ。コレハ何ノ國ナルカ、汝等ハ後日ニ學ブ時アルベシ。

假ヒ。



兄ハ遠方ニ出立セント元背ニ風呂敷キ包ミテ負ヒ今戸口ヨリ出デ來レリ。妹ハ兄ヲ送ラントテ亦家ノ前ニ在リ。兄曰ハク「才梅無事ニ暮シ給ヘ。彼ノ地ニ到着セバ直チニ書狀ヲ送ラシ。御身モ速ニ返事ヲ遣シ給ヘ。今ヨリ速ク

一ノ書ノ

十四

別カレテハ書狀ヲ見ルノミガ樂シミナリト 妹ハ
面ヲ上ゲテ「サラバ御無事ニ」ト云フ計リニテ涙
ヲ押ヘテ見送り居レリ。

コノ兩人ハ早ク親ニ別カレ今ハ各ミヅカテ其
ノ身ヲ養ハントテ兄ハ遠方ニ出立スルナリ。
親ナキハイカニ哀ナル事ナラズヤ。

コノ兩人ハ字ヲ知ル故ニ遠方ニ別カレテモ互
ニ書狀ヲ送りテ安否ヲモ知り辛苦ヲモ語り合
フナリ。字ヲ知ルハイカニ樂シキ事ナラズヤ。
兩人ノ書狀ヲ次ギニ示スベシ。

書狀

兄ハ彼ノ地ニ到着セル日イマブジニツイタ
ト一音信ノ電信ヲ送りキ。次ギニ郵便ニテ送
リシ書狀ノ文ニハ。

其後は御事にて。われ等事電信にて申送
りし通り道中喜ぶりにて昨日到着いたし
當地叔父上より親切に世話し給けり故に
安心なさるべし。われ等出立の後の淋
しさ察し入りし。われ等は日夜は身の無事を
祈る外なくは餘は後便にゆづり申す以上。

三月八日。

松本邦。

れ梅どの。

トアリ 妹ヨリ送リ返事ハ左ノ如シ
三月八日の勝手紙承り。送來迄の後は何
事も心細く力をくひへが、この程の電信と
勝手紙にてやうやう心をわづきぬ。くれ
ぐれも勝手身を大切にあらはされ、送いら
き時にも折々は勝手紙にて様子を知ら
せ下されたくいかしく。

三月十一日。

うめ。

送兄上様。

コノ兄弟ハ互ニ親切ナリ定メテ他人ニモ親
切ナルベシ。コノ兄弟ハ學校ニテ勉強ノ子供
ナリキ定メテ職業ニモ勉強ナルベシ。人ニ親
切ナレバ人ニ愛セラレ、職業ニ勉強スレバ職業
繁昌ス。コノ兄弟ハ後ニ富タル人トナルベシ。

皮膚。

面、腹、背、手、足、指、肩、腰、膝ニ皆皮ヲ被レリ。皮ヲ
被レル處ヲ肌ト云ヒ、又皮膚ト云フ。
人ノ皮膚ハ種種ノ事ヲ知レリ。皮膚ハ火ニ

觸ルレバ其ノ熱キヲ知リ、氷リニ觸ルレバ其ノ冷カナルヲ知ル。皮膚ヲ針ニテ突カレレバ痛ク、倒レテ膝ヲ突ケバ亦痛シ。蜂ニ刺サルレバ痛ク、蚊ニ刺サルレバ痒シ。

塗リ物ヲ撫ツレバ皮膚ハ其ノ滑カナルヲ知リ、
トヤぼんヲ撫デテモ亦滑カナルヲ知ル。砂ヲ撫
ツレバ其ノ粗キヲ知リ、土ヲ撫テモ亦其ノ粗
キヲ知ル。

若皮膚ノシロルル時ハ熱キト冷カナルヲ知
ラズ、滑カナルト粗キヲ知ラズ、痛キ、痒キヲ知ラ
ザル故、覺ヒズ皮膚ヲ焼キ、或ハ疵ヲ付クルコト
甚多カラシ。皮膚ヲ大切ニシテ清潔ニスベ
シ。

鼻。

香ヒノ善キ者ハ先梅ノ花ナルベシ。薔薇
ノ花ト梅ノ花ト何レカ香シキヤ。化粧ニ用フ
ル花ノ露ハ薔薇ノ花ヨリ取リシ者ナリ。
食物ニ香ヒ善キ者アリ。蜜柑、金柑、柚、橙ハ渠
ノ中ノ香ヒ善キ者ナリ。人ハ蜜柑ノ實ヲ食セ、
其ノ皮ヲ藥味ニ用フ。金柑ハ皮モ食ハセ、實モ

食ハル。柚ノ皮ハ藥味ニ用ヒラル。柚橙ノ膏ハ甚酸シト雖、コレヨリ絞リタル酢ハ味殊ニ善シ。山椒、山葵、芥子、款冬ノどろモ亦善キ藥味ナリ。藥味ヲハ香料トモ云フ。葱、蒜、薤モ亦香料ナレドモ香ヒ甚臭シ。

鼻ハ嗅キテ其ノ香ヒノ善キヲ知り、亦其ノ臭キヲ知ル。凡臭キ者ハ肉ノ腐リタルヨリ甚シキハナシ。モシ鼻ガ臭キヲ知ラザルナラバ、人ハ腐リタル肉ヲモ知ラズシテ食フコトアルベシ。



遊惰

貧シキ人ノ家ヲ見ヨ。疊ニハチギレ障子ハ破レ、天井ニハ蜘蛛ノ巢多シ。此ノ人蜘蛛ノ巢ヲ拂ハント思ハバ、僅ニ數分時ノ間ニ拂ヒ終ハラン。然レドモ遊惰ニシテ拂フコトヲセズ。此ノ人モ僅ニ數十分ノ間働カバ紙ヲ

買ヒテ障子ヲ張ルニ十分ナラン、然レドモ遊惰ニシテ働カズ。此ノ人一日働カバ新シキ疊ミヲ買フコトヲ得ベシ、然レドモ遊惰ニシテ働カズ、

其ノ他敷居ハ曲ガリ鴨居ハ傾キタリ。一度障

子ヲ開ケバ又閉ヂ難ク、一度閉ヅレバ又開キ難

シ。君ハ彼ノ盥ハ何ノ爲ト思フカ。前日大

雨ノ時屋根破レテ雨漏リシ故ニ盥ニテ受ケシ

ナリ。見ヨ其ノ盥ハ今猶元ノ處ニアリ。

此ノ人僅ニ錢ヲ得ル時ハ直チニ酒ヲ買ヒテ

飲ム。酒ヲ飲メバ眠リ、蜘蛛ノ巢ヲモ拂ハズ、屋

根ノ漏ルヲモ止メズ。此ノ人ハカクレテ一生

ヲ汚ク終フルナラン。

別荘

コレハ何人ノ家ナルカ。清潔ニシテ且廣大

ナル屋敷キナリ。廻リニハ石垣アリ、板屏アリ、

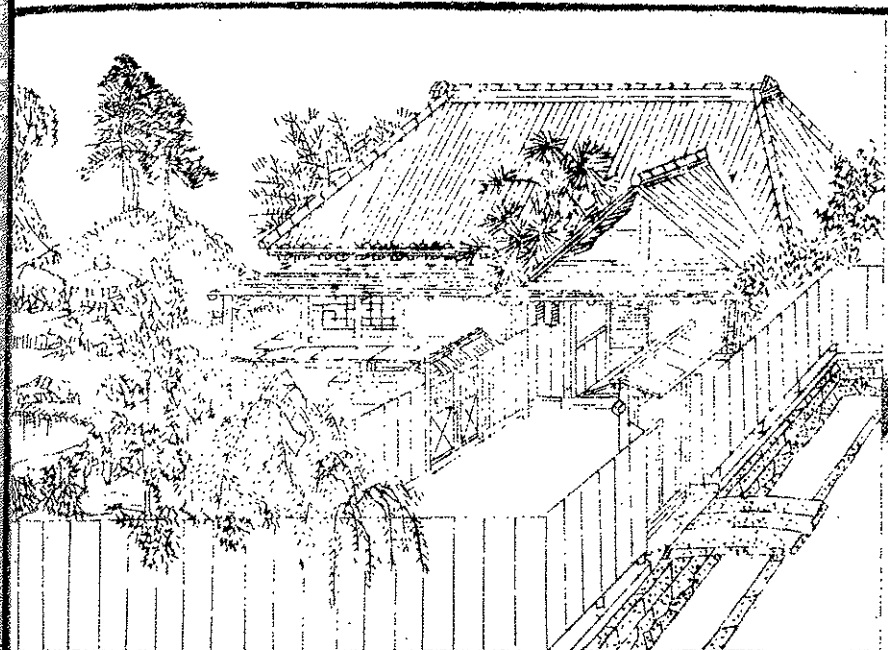
堀ニハ石橋アリ。ソノ石ハ必花崗石ナラン、

花崗石ハ甚美麗ニシテ堅キ石ナリ。

此ノ家ハ日本風ナレドモ、屋根ハ瓦ニテ葺キ、

壁ハ厚ク塗レル故、火事ノ患ヘ少カラシ。此ノ

家ノ南ノ方開キテ、善ク日ノ光リヲ受ク。窓ノ



開キカタ宜シキ故ニ風
 善ク通りテ空氣清潔ナ
 ラン。南ノ方ニ椽側ア
 リテ庭ヲ見晴ラセリ。
 庭ニハ多クノ草木今ヲ
 盛リト咲キ亂レタリ。
 築キ山ノ邊ニ清キ泉水ア
 リテ金魚遊ビ、鯉跳レ
 リ。此ノ家ノ小兒ハ勉
 強終ハリテコロ庭ニ遊ア

ナラン。イカニ樂シキ事ナラン。力カル家ニ
 住ム人ハ誠ニ仕合ハセナル者ナリ。

コレハ田舎ノ別荘ニシテ、コノ家ノ主人ガ時
 時來リテ休息スル所ナリ。コノ人ノ本宅ハ市
 中ニアリテ美麗廣大ナル煉化造リナリ。然レ
 ドモ市中ハ騒ガシクシテ且空氣不潔ナル故ニ、近
 頃コレヲ造リテ別荘トハシタルナリ。

衣食住。

衣服ハ暖カナレバ足レリ食物ハ腹ヲ満たセバ
 足レリ家ハ風雨ヲ防ゲバ足レリト昔ノ人ハ云

ヒキ。コレハ唯奢リヲ戒ムル語ナリ。吾レ等ハ決シテコレニテ足レリト思ハズ。

衣服ハ暖カナリトモ垢付キ汚ルレバ養生ニ害アリ。故ニ衣服ハ暖カニシテ且清潔ナルベシ。

食物ハ腹ヲ満タストモ養ヒ多キ者ニ非レバ身體ヲ壯健ニレカヲ増スコト能ハズ。腐リタル物、不潔ナル物ヲ食ヘバ養生ニ害アリ。コナレ

惡シキ食物モ亦養生ニ害アリ。人ノ腹ノ中ニハ食物ヲ入ルル袋アリ、コノ袋ヲ胃ト云フ。食

物ハ喉ヨリ胃袋ニ入りテコナルルナリ、是レヲ消化スト云フ。君モシ鳥ヲ料理スルヲ見ハ喉

ヨリ管アリテ胃袋ニ續クヲ見ルベシ。人モ鳥モ胃ヲ害スレバ、又食物ヲ食フコト能ハズ。

飲ミ物、食ヒ物ノ中ニ最大切ナルモノハ水ナリ。飯ヲ炊キ、汁ヲ煮ルニ水ヲ用ヒズヤ。膳、椀ヲ洗フニ水ヲ用ヒズヤ。夕トヘ食物ハ宜シク

トモ、水汚ルレバ食物皆汚ル。

家ハ雨風ヲ防グトモ塵積モリ、疊ミ濕ヒ、柱、敷キ板朽ツルトキハ病ヲ引キ起コス。善ク日光ヲ受ケ、

善ク空氣ヲ通サザレバ亦病ヲ引キ起コス。

人ハ奢ルベカラズ然レドモ不潔ヲナスベカ
ラス。これらノ如キ恐ルベキ病モ多クハ不潔
ヨリ起コルナリ。人タル者ハ常ニ職業ヲ勵ミテ、
清潔ナル衣服ヲ着清潔ニシテ善キ食物ヲ食ヒ、
清潔ナル家ニ住マンコトヲ心掛クベシ。

衣服ノ話。

今日ハ天甚曇レリ又モ雪降ルナラン。僕ハ

綿入レト胴着ヲ著テ下ニハ襦袢上ニハ羽織リ
ヲ重子タレドモ猶寒サニ堪ヘ難シ。僕ハ股引

ヲ買ハント欲ス。絹ト木綿ハ何レカ最暖カナリ。

絹ト木綿ニ手ヲ觸レテ見給ヘ。絹ハ冷カニシテ

木綿ハ暖カナラン。布ハ又絹ヨリモ冷カナリ。故

ニ冬ノ衣服ヲバ多クハ木綿ニテ作り夏ノ衣服

ヲバ多クハ布ニテ作ル。奈良晒シ近江晒シハ麻ノ類

ナリ。越後縮ミハ京ノ糸ニテ織リタル者ナリ。

夜着蒲團ハ暖カナルヲ好シトス。故ニ夜着ニ

モ蒲團ニモ皆木綿綿ヲ入レ其ノ皮モ亦大抵木

綿ナリ。蚊帳ト帷子ハ涼シキヲ好シトス。故

ニ蚊帳ハ大抵布ヲ用ヒ帷子ニハ晒布或ハ縮

ミヲ用テ。

君ハ裕ヲ著タルカ、ソノ裕ハ紬カ。君ノ羽織
リモ紬カ。襦袢ノ袖ハ縮紬カ。紬モ縮緬モ絹
ナリ。日本ノ絹ハ世界ニ名高シ。綸子、緞子、縞
子、綾、羽二重、龍紋等ハ皆美シキ絹ナリ。吾レ等
ハカク衣服ヲ重子テサヘ猶寒キニ見給ヘ、犬ノ
子ハ雪ノ中ニ快ク戯レ遊ベリ。犬ハ何故ニ衣
服ヲ著ザルカ。

毛ト皮ハ獸ノ衣服ナリ。毛ハ絹ヨリモ木綿
ヨリモ暖カナリ。冬ニ向カヘハ獸ノ毛自然ニ増シ
テ暖カナルコト人ノ衣服ニ勝レリ。故ニ織リ物
ノ中ニ最暖カナルハ毛織リ物ナリ。羅紗、ふらん
ねる、ふらんけつとハ皆毛織リ物ナリ。

馬ヨリ落ツ

小太郎一日孫太郎彦次郎ヲ誘ヒ出ダシ、己レ
ガ父ノ愛スル馬ヲ密ニ引キ出ダシテ、乘リケリ。
馬ニハ鞍ヲモ置カズ、手綱ヲモ掛ケザレバ、鐙ヲ
モ勿論掛ケザリキ。
カクテ小太郎八年最長シタレバ、己レハ最後
ノ方ニ乘リ前ニ孫太郎ヲ乗セ、其ノ前ニ彦次郎
ヲ乗セケリ。馬ハカク三人ノ少年ヲ乗スルコ



トヲ嫌ヒシ故、敢テ歩
 ザリケレバ、小太郎ハ木
 ノ枝ヲ鞭トシテ、頻ニ馬
 ノ尻ヲ打チキ。
 馬ハ強ク打タレテ怒
 リニ堪ヘズ、恰風ノ如ク
 ニ走り出デケレバ、三人
 ハホラホラト叫ビケリ、
 暫ニシテ三人皆目ク
 ルノヤテ堪ヘ難クナリ

ケレドヒ、馬ハ怒レリ、手綱ハ無レ、鞭ハ今馬ヲ止
 ハルノ用ニハ立チ難シ。三人ハ止ムルニ止メ
 ラレズ、歸ルニ歸ラレズ、聲ヲ限リニ助ケコ助ケ
 ヲト叫ビケリ。

ココハ廣キ野原ナレバ、出デテ助ケル人モナ
 ク、小太郎ハ遂ニ刎子落トサレテ、腹ヲ蹴ラレ、孫太郎
 モ亦泥ノ中ニ落トサレタリ、獨彦次郎ハ馬ノタ
 テ髪ニ取り付キタレド、是レモ遂ニハ落ツルナラ
 ン。

小太郎モレ父ニ願ヒテ乘リレナニ、父ハ鞍

ヲモ 燈ヲモ 貸シタルナラン。 小太郎ハ父ニ借
ラズシテ密ニ乘リシ故、遂ニカカル痛ミヲ受ケ
タリ。

桐ノ話。

僕ハ先日ノ試験ニ及第シタル故、父ハヨノ書
籍ヲ僕ニ與ヘタリ。 見給ヘ、本箱ハ桐ノ木ナリ。
來年ノ試験ニ及第セバ父ハ僕ガ爲ニ桐ノ机ヲ
買ハント云ヘリ。

君ハ桐ノ林ヲ見シコトアリヤ。 桐ハ生長甚
速ナル木ナリ。 君ハ桐ノ花ヲ見シヤ。 桐ノ花
ハ胡麻ノ花ニ似テ、一本ノ莖ニ多クノ花咲クナ
リ。

僕ノ下駄ハ桐ナリ。 君ノ足駄ハ桐臺ニシテ、
櫛齒カ。 否、櫛齒ニ非ズ、櫛齒ナリ。 桐ニテ作り
タル物ハ美シクシテ、濕氣ヲ防ギ、又輕クシテ運
ビ易シ。 故ニ本箱、箆、筒、長持チノ類ヲバ大抵桐
ノ木ニテ作ル。

寶。

昔賢キ農夫アリキ。 其ノ死ナントセシ時、枕
元ニ子供ヲ呼ビテ遺言シケルハ、吾ガ家ト田畑

ノ外ハ汝等ニ残スベキ形見ナシ。然レドモ吾
ガ年久シク隠シ置ケル寶アリ、吾ガ持チ地ノ中
ニ埋メ置ケリ。吾レ死ノバコレヲ掘リ出ダセ。
誰レニテモ掘リ當テタル者ニ與ヘントナリ。

忌ミ終ハリテ後子供等ハ各父ノ形見ヲ得ント
思ヒ、吾レ劣ラビト先ヲ争ヒ、夜ヲ日ニ繼ギテ持
チ地ヲ掘リ起コシケレバ數日ノ間ニ屋敷、田、畑、
荒地マデ残ラズ五六尺ノ深サニ掘リ返シケリ。
力カリケレドモ、大キナル石ト朽チタル木ノ根
ノ外ハ一物モ掘リ當テザリケレバ、子供等ハ皆

望ミノ失ヒテ、アハト我ガ父ハト賢キ人モ老シ
ボレテハ、アラヌ遺言ヲレ給ヒタリトテ半バハ
腹立テ半バハ笑ヒテ止メニケリ。

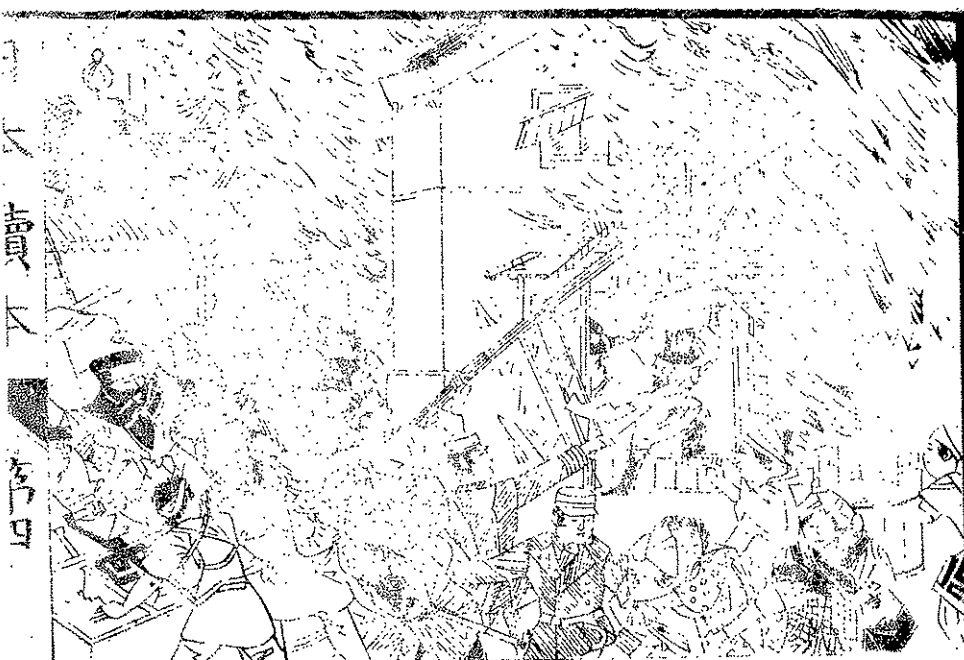
力クテ掘リ返シタル地ニハ様様ノ穀物、野菜
ヲ植エ付ケケリ。米、麥ハ云フニ及バズ、下田ニ
ハ稗ヲ蒔キ、輕クシテ濕ノリタル土ニハ粟、黍、玉
蜀黍ヲ植エ、砂地ニハ蕎麥、馬鈴薯、薩摩芋ヲ植エ、
其ノ外豌豆、蠶豆、小豆、大豆、マダテ、及ブ限リ
植エ付ケケリ。

コノ年、植物ノ成長甚盛ニシテ、米、麥ニハ穂多

ク、穂ニハ粒多ク、皆平年ノ收納ニ三倍シケリ。
 土和カニシテ根ノ生長自由ナリケレバ牛蒡、胡蘿
 蔔ノ大サハ去年ノ大根ノ如ク、蕪ノ大キサハ去
 年ノ南瓜ノ如クナリキ。小兒ハ玉蜀黍ト蠶豆
 ノ成長ヲ樂シシ、馬鈴薯、薩摩芋ノ熟スルヲ喜ビ、下
 女下男ハ野菜ノ成長ヲ喜ビテ皆樂シキ年ヲ送
 リキ。

此ノ時子供ハ初メテ深ク耕スノ功能ヲ知り、
 勉強ノ功能ヲ知り、又父ノ賢カリシヲ知りキ。

火事



イカニ、スサマジキ火
 事ナラズヤ。焰ハ天ヲ
 焦ガシ、飛ビ火ハ八方ニ散
 ル。手傳ヒ人ハ荷ヲ荷
 ヒテ梭ノ如ク馳セ違ヒ、
 老人小兒ハ逃ゲ道ヲ失
 ヒテ泣ク。

巡查ハ火消シヲ指シ
 圖シテ、命ヲ限リニ働ケ
 ドモ、イカニセン、數日ノ

賣
 買
 手
 入
 表
 一

天氣ニテ家ハ乾キ、風ハ強レ、數十戸ノ大家見ルガ内ニ棟落チ、柱倒レ、只一面ノ火トナリス。飛ビ火ハ數町隔タリタル家ニ燃エ付キ、ココニモカシコニモ火事起コレリ。今ノ中ニ火止マラズバ、憐ムベシコノ大都會ハ一夜ニ灰トナラン。

火事ハ或ハ小兒ノ火ヲ玩アヨリ起コリ、或ハ煙筒ノ煤ヨリ起コリ、或ハらんぷヨリ起コル。故ニ小兒ハ火ヲ玩ブミカラズ、煙筒ヲバヨク掃除スベシ、らんぷニハ心ヲ付クベシ。らんぷノ釣リ繩弱ケレバ、落チテ火事ヲ起コス。らんぷノ油少ケ

レバ、火入リテ火事ヲ起コス。らんぷノ油惡シケレバ、火ヲ引キテ亦火事ヲ起コス。らんぷハ行燈、挑燈ヨリ明ナレドモ、其ノ油ハ石油トテ火ヲ引キ易キ油ナリ、惡シキ石油ハ殊ニ火ヲ引キ易シ。

石油ハモト土ヨリ湧キ出デタル黒キ油ナリ。コノ油ヲ製シテらんぷニ用フ。行燈ノ油ハ種油又ハ魚油ニシテ、種油ヲバ菜種ヲ絞リテ取リ、魚油ヲバ鱈、鯪、又鯨ヨリ取ル。蠟燭ハ蠟ニテ作ラレ、蠟ハはせノ木ノ實ヨリ取ラル。蠟ハ亦漆

ノ實ヨリ取ラルコトアリ、魚油ヨリ取ラルル
コトモアリ。

種油、魚油、蠟燭ハ、火事ノ恐レ少クレドモ其ノ
火ノ光リ石油ノ如ク明ナラズ。然レドモ好キ
器械ヨ工夫シ好キ製法ス工夫スル時ハ石油ニ
劣ラヌ光リヲ得ベシ。諸君ハ學問ヲ勉強シテ
コレ等ノ工夫ヲナスベシ。

珍シキ藥方書

病人アリテ藥ヲ買フハ常ニ痛マシキ事ナリ。

然レドモコレニ笑フミキ藥買ヒノ結シアリ

或町ニ藥種屋アリ。或日一人ノ田舎者戸板
ヲ車ニ載セテ此ノ家ノ前ニ止リ、戸板ヲハ店
ニ持チ込ミタリ。此ノ時番頭驚キテ大キナル
目ヲナシ「コレコレ何ヲスル。指物師ハ左ノ三
軒目ナリ」ト云ヒキ。田舎者ノ曰レケルハ「門違
ヒニアラズ。私ハ近在ノ百姓ナリ。今日私ノ
宅ニ病人アリテ醫師ヲ迎ヘニ、紙モトク筆セ
ナカリシカバ醫師ハ白土ノ塊ヲ以テ此ノ戸板
ニ藥方ヲ書キタリ。願ハクハ是レヲ讀ミテ藥
ヲ合シ給ハト」

番頭ハ思ヒモ寄ラヌ事ニテ腹ヲ抱ヘラ笑ヒ
ガヤガテ此ノ珍ニキ蔡方書ヲ讀ミテ藥ヲ合
ハセ遣ルケリ。

見物

數人ノ旅人相語リテ田舎道ヲ行ク。笠ヲ被
リ草鞋ヲ履キタル人アリ。頭ニ手拭ヒヲ被リ笠
ヲ背ニ掛クタル人アリ。傘ヲサシテ靴ヲ履キタ
ル人アリ。合羽ヲ著テ足袋ト下駄ヲ履キタル
モアリ。桐油ヲ疊ミテ背負ヒタルモアリ。或
ハ股引キ脚半ト半天ヲ著タルモアリ。



コレハ田舎ノ人ガ東
京見物ニ往クナラン。
今年ハ豊年ナリシ故此
ノ人人ハ秋ノ仕事ヲ仕
舞ヒテ見物ニ出デタル
ナラン。如何ニ樂シキ
事ナラズヤ。勉強ヲ終ハ
リテ遊ブホド樂シキコ
トハナシ。
アレ見ヨ何者カ田ノ

畔ニ立チ、笠ヲ被リ、箠ヲ着、弓ニ矢ヲツガヘテ旅人ヲ射ントセリ。危シ、危シ、何故ニ旅人ハ早ク逃ゲザルヤ。彼レハ人ニ非ズかがナリ。かがハ葉ヲ束子テ人ノ形ニ作りシ者ナリ。かが一ヲ立ツレバ鳥モ獸モ恐レテ田畑ノ物ヲ食フコトナレ。

櫛ト葦。

大風ノ翌日忠次郎ハ兄良吉ニ伴ハレテ野邊ニ遊ビ、古キ櫛ノ木ノ倒レタルヲ見テ「アア、此ノ櫛ノ木ハ昨日マデ高ク雲ノ上ニソビエ、廣ク日

ノ光リヲリリヘテ、雨フル日ニハ旅人ノ休ミ所トナリ、暑キ日ニハ吾レ等が遊ビ所トナリシガ、アハレニモ一夜ノ中ニ幹ハ倒レ、根ハ抜カレシ事ヨトテ思ハズ涙ヲ落トシケリ。

既ニシテ忠次郎ハ河邊ノ葦ヲ顧ミテ此ノ弱弱シキ葦ハ昨日ニモ替ハラズ、ココチヨゲニ生ヒ茂レリ。櫛ノ木ガ汝ヨリ弱カラントハ思ハズリキトテ益涙ヲ落トシケリ。

良吉ノ白ヒケルハ忠次郎、善ク心ヲ留メヨ。葦ハ柔カニシテ能ク風ニ順ヒ、一夜ノ暴風ヲ凌ギ

テ又今日ノ晴天ニ逢フコトヲ得タリ。 檜ハ強
キニ過ギテ一時ノ風ニ順フコト能ハズ終ニ幹
ハ折レ根ハ抜カルルニ至レリ。 惜イカナ、吾レ
汝モイツカ又此ノ木ノ下ニ遊バンヤ。

港三府五港。

汝等ハ既ニ日本地圖ヲ見タリ。 今又地圖ニ
付キテ見ヨ。 東京ハ海岸ニアリテ其ノ海ハ深
ク陸地ニ入りタリ。 西京ト四國ノ間ニモ富士
山ノ南ニモソノ他處處ニカクノ如キ海アリ。
カク陸地ニ包マレテ一方ニ口アル海ヲ入り海

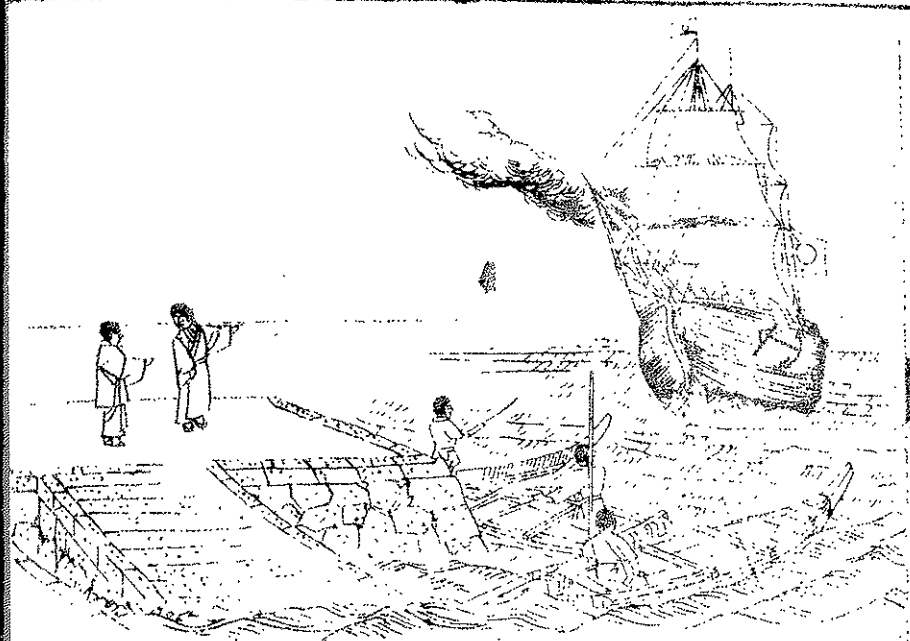
ト云ノ。

入り海ハ陸地ニ包マルル故風烈モキ日ハ波
穩ナリ故ニ舟ノクツガヘルコトナク流サルル
コトモナレ。 サレバ舟ハ入り海ノ岸ノ都合ヨ
キ處ヲ撰ビテ皆ココニ泊ルコノ場所ヲ港ト云
フ。 東京ノ入り海ニハ横濱ノ港アリ。 横濱ニ
ハ近國ノ産物ヲ集メ船ニ積ミテ他國ニ送ル
他國ノ産物ハ横濱ニテ船ヨリ下口ニコレヲ近國
ニ送ル。 他ノ港モ皆カクノ如シ。
大坂ノ西ニ神戸ノ港アリ。 九州ニテハ右ノ

手ノ端ニ長崎ノ港アリ。とかげノ左ノ手ニ向カ
ヒテ魚ノ子ノ如キ島アリコレ佐渡ノ國ナリ。
佐渡ノ國ヨリハ金銀多ク出ヅ。佐渡ニ向カヘル
本島ノ海岸ハ越後ノ國ナリ。越後ニハ新潟ノ
港アリ。あかひノ尾ノ端ニハ函館ノ港アリ。
横濱神戸長崎新潟函館ノ五ツハ港ノ中ニモ
商賣最繁昌ナル地ニシテコレヲ五港ト云フ。
好キ港ハ東向キ南向キノ海岸ニ多クシテ西向
キ北向キニハ少シ。東京京都大坂ハ日本ノ都
會ニシテコレヲ三府ト云フ。

入船

佐藤ト伊藤ハ今港ニ入ル蒸氣船ヲ眺メ、ア
リ。水夫ハ既ニ帆ヲ卷キ、今楫ヲ使ヒテ船ヲ廻
シ居タリ。程ナク錨ヲ下ロスナラン。
「佐藤君見給へ。黒烟ハ雲ノ如ク卷キ上がり日
ノ丸ノ旗ハ夕日ト光リヲ争ヒテ橋ノ上ニヒル
ガヘル。」イカニイサマレキ景色ナラズヤ。
「然リ。甲板ノ上ニハ數千人立ち出デテ浮船
ノ來ルヲ待テリ。アノ中ニハ高橋君モ居ルナ
ラン。僕ハ彼ノ人ノ出迎ヒニ來リレナリ。」



僕モ高橋君ヲ迎フル
 ナリ。彼ノ人ノ父母兄
 弟ハ如何ニ嬉シク思フ
 ラン。彼ノ人モ父母兄
 弟ニ逢ヒ見ル嬉レサハ
 如何ナラン。昔ヨリ船
 ニ乗リテ海ニ浮カビレ人
 難風ニ逢ヒテ舟クツカ
 ヘリ身死セレ人幾何ゾ
 ヤ。風烈シク波高キ時

ニ若此ノ船ノ固カフリリセバ彼ノ人ハ身ヲ
 海ノ中ニ葬ラレシノラン。海ハ彼ノ人ノ墓場ナ
 リシナラン。今カク安全ニ此ノ港ニ上陸セシ
 ハ偏ニ堅固ナル船ノカナリカクマデ恐ロシキ
 海ナルヲ皆人ノ船ニ乗リテ渡ルハ何故ゾヤ。
 海ヲ隔テタル國ニ或ハ大キナル學校アリ或ハ
 珍シキ産物アリ。故ニ學生ハ學問ノ爲ニ行
 キ商人ハ商賣ノ爲ニ行クナリ。去年此ノ船
 ガ港ヲ出デシ時ハ此ノ國ノ産物ヲ積ミテ行キ
 シガ今ハ彼ノ地ノ産物ヲ買ヒ來リテ此ノ地ニ

テ賣ルナラン。此ノ船ニハ賢キ學生ト珍シキ
産物ヲ多ク載セテアラシ。

四時

梅ハ散リ、櫻ハ葉櫻トナリテ、花ノ時ハ已ニ過
ギヌト思フニ、牡丹ノ花ノ賑ヤカニ、藤ノ花ノケ
ダカク咲キタルコソ思ヒヨラズ面白ケレ。

鶯ノ聲モ漸稀ニシテ、五月雨洒グ花菖蒲ノ濕
リテ薰ル曉ニ、杜鵑一聲聞コユルモ亦心静ニシテ
宜シ。

綿入レハ恰ニ替ハリ恰ハ單物トナリテ身モ漸

輕ク覺エルニ、七八月ニ至レバ暑サ甚シクシテ
凌ギ難シ。今朝ノ朝顔ノ花ハ枯レ果テテ、蟬ノ
聲サヘ苦シゲナルニ、夕日漸西ニ沈ミテ、涼シキ
風蓮池ヲ過ギ螢ハ露ヲ尋子テ草葉ノ間ニ亂レ
飛ブ時ハ誰レモ皆夏ナルコトヲ忘ルベシ。

秋ハ時候暑カラズ寒カラズ。夜長クシテ學
生ノ勉強ニ宜シク、稻熟シテ百姓ハ收納ヲ樂シム。
四時ノ閑静ハ秋ノ夕ニ如ク者ナシ。薄ヲ問ヒ
萩ヲ尋ル人モ無キ夕ニ、野邊ノ秋風身ニシミテ
鶉ノ鳴クコソ又類ナク哀ナレ。山ノ紅葉ハ濃

ク薄ク菊ノ花ハ今ヲ盛リト咲キ亂ルル頃ハ其ノ樂シミ亦春ニモ劣ラズ。

草ハ枯レ木ノ葉ハ萎ミ葦ノ聲モ限リニナリテ曉ノ霜白キ頃ハ誰レモ皆心淋シ。マシテ雪ハ道ヲ埋メ池ハ氷リニ閉チラレテハ只年ノ暮ルルヲ待ツノミナルニ室ノ梅ノ一ツ咲キ出デタルハ珍シク嬉シ。十二月ノ末ハ勘定時トテ人皆心急カレキ中ニモ新年近ヅキヌレバ餅搗キトテ臼杵ノ音アチコチニ聞コユレバオノヅカラ人ノ心モ淨キ立ツベシ。

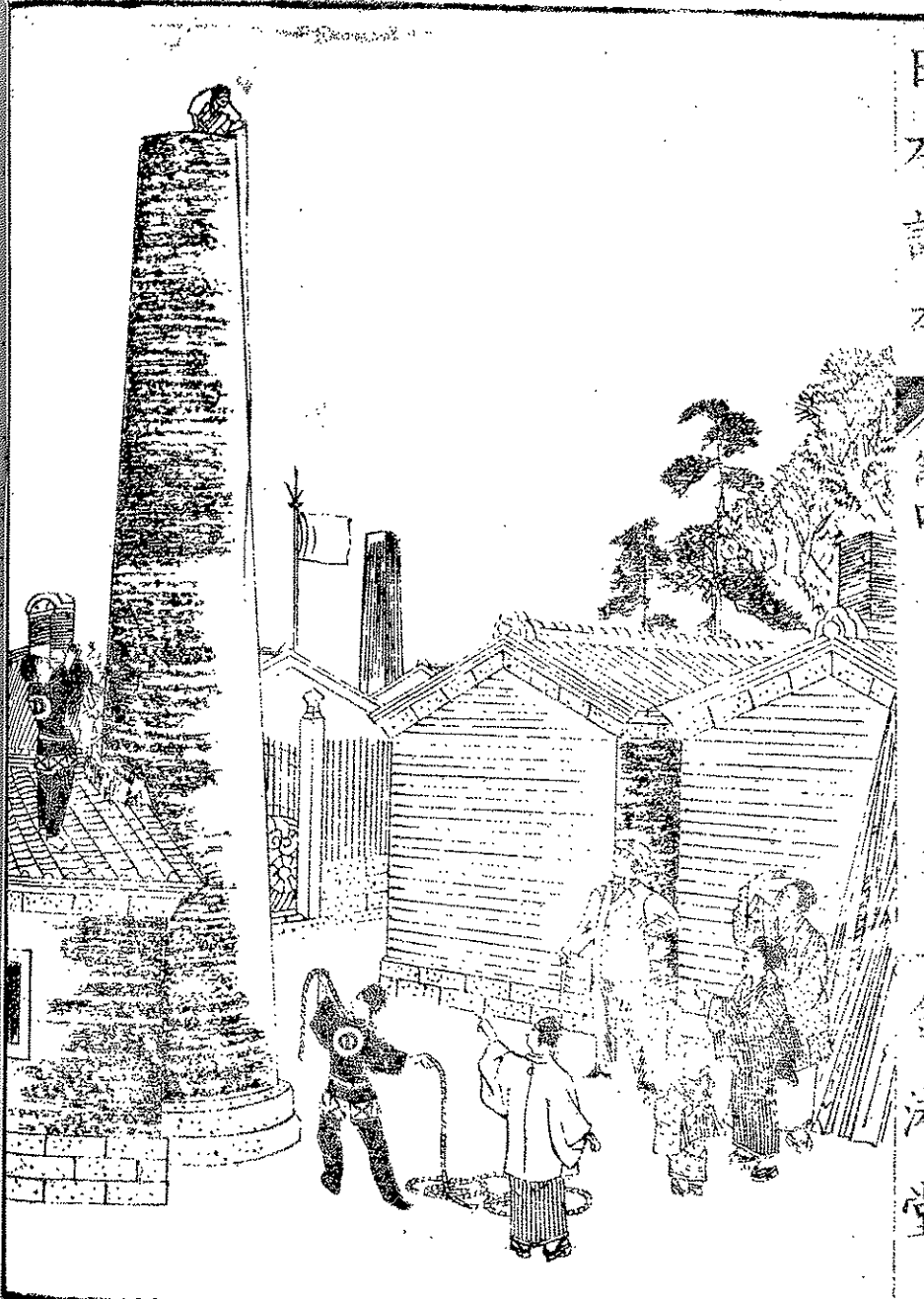
年月ノ立ツハ水ノ流ルルが如シ一タビ行ケバ又返リ來ラズ。ワカキ時ニ勉メザレバ老イテ後臍ヲ噬ミテ悔ユトモカヒナカラシ。

昨日ト過ギ今日ト暮レツアスカ川。

流レテ早キ月日ナリケリ。

頓智

コノ高ク立チタルハ煙筒ナリ。大キナル製造所ニハ大抵カクノ如キ煙筒アリ。筒ノ頭ニ小サキ車アリテ其ノ形ハ井ノ上ノ車ノ如クコレニ強キ綱ヲ掛ク。綱ノ端ニ輪アリ。人ハコ



ハ輪ニ足ヲ掛クヲ引キ上ダラレ或ハ縁ノオロサル。

今職人ハ煙筒ノ修覆ヲ終ヘテ次第ニ下リ、只一人ヲ殘シシニ、心ナキ職人誤リテ綱ヲ引キ落トシタリ。憐ムメン、殘リタル人ハ如何シテ下ラシヤ。數多ノ職人ハ忙然トシテ唯煙筒ヲ見上グルノミ。

其ノ時コノ人ノ妻ハ聲ヲ限リニ沓足袋ノ爪先ヲ解キ給ヘト叫ビケリ。夫ハ早クモ妻ノ心ヲ察シテ沓足袋ノ爪先ヨリ絲ヲ解キ出シ、其

ノ端ニ鍊瓦ノ切レヲ結ビ付ケテ、次第ニ繰リオ
ロシケリ。

絲ノ端地ニ届キレ時、妻ハ其ノ端ニ風糸ノ端
ヲ結ビ付ケテ、繰リ上ゲ給ヘト叫ビケリ。糸ハ
次第ニ繰リ上ゲラレテ、届キタリ、届キタリト云
フ聲、遙ニ煙筒ノ上ヨリ聞コエケレバ、今度ハ風
糸ノ端ニ大綱ヲ結ビ付ケテ繰リ上ゲシメ、終ニ
此ノ人ヲ無難ニ地ニオロシケリ。

河村隨軒

昔アル大寺ノ屋根瓦一枚落チシコトアリケ

リ。寺ノ住持職人ヲ呼ビテ修覆ヲ命ジケルニ、
屋根高クレテ、梯ノ及バザル所ナレバ、あゝろト
云フ者ヲ組ミ立テテ升ルベシ、サレバ數百圓ノ
金ナラズバ、受ケ負ヒ難シト答ヘケル。河村
隨軒ト云フ人コレヲ聞キテ、扱モ愚ナル人々カ
ナ、若隨軒ニ頼マバ百圓ニテ受ケ負ハシモノ
ヲト云ヒケレバ、寺ノ住持モ如何アラントハ思
ヒナガラ、試ミニコノ人ニ頼ミケリ。

隨軒風ノ模様ヲ見テ寺ノ前ニテ風ヲ上ゲ、十
分ニ糸ヲ遣リテ、寺ノ棟ヲ越エシメ、サテ懸ト風

ヲ落トシケレバ、尻糸ノ端ハ寺ノ後口ノ地面ニ届キ
タリ。隨軒ハコノ糸ノ端ニ太キ繩ヲ結ビ付ケ
テ、寺ノ前ニ引キ出ダシ、其ノ端ヲ儘ニ地面ノ杭ニ
縛リ付ケテ職人ヲ升ラセケレバ、僅ニ一時間ノ
中ニ事ヲ終ヘタリ。

數百圓ノ金、數日ノ隙ヲ費スベキ仕事ガ僅ニ
百圓ノ金ヲ費シテ一時間ノ中ニ終ハリケレバ、住
持ノ喜ビト驚キハ思ヒ遣ルベシ。隨軒ハ五圓
ノ金ヲモ費サズシテ百圓ノ金ヲ得タリ。

隨軒ハ工夫ニ富ミタルノミチヲズ、儉約ニレ

テ勉強ノル人ノリキ。初ノコノ人ガ一錢モ持
タザリシ時、道路ニ捨テラレタル草鞋ヲ拾ヒ、コ
レヲ細カニ割ミテ、壁ノスタ、壁ノスタトテ市中ニ
賣リアルキケリ。古キ草鞋ノスタハ柔カニシテ、
使ヒ易キ故、左官ハ皆争ヒテコレヲ買ヒケレバ、
忽相應ノ錢ヲ得ケリ。コレヲ資本金トシテ、
商法スレバ利潤ヲ得、普請ヲ受ケ負ヘバ利潤ヲ
得テ、遂ニ名高キ豪家トナリシト云フ。

正直ノ報イ

西洋ノアル國ニ賢キ學者アリキ。其ノ人平

生儉約ニテ多クノ金錢ヲ貯ヘシガ、妻ニハ早ク別カレ、家ヲ嗣グベキ子モナクテゾ死ニケル。親類朋友集マリテ其ノ遺言狀ヲ披キ見ルニ、

吾レ死ナン後、吾ガ所有物ヲ親戚朋友ニ公賣シ、其ノ代價ハ村中ノ貧民ニ施スベシ。吾ガ貯ヘタル金錢ハ所有物ノ中ニ隠シ置キタレバ、誰レニテモ其ノ品ヲ買ヒ當テ人ニ譲リ與フベシ。

トアリケレバ、遺言ニ任ヒテ其ノ由ヲ諸方ニ廣告シタリ。

其ノ日ニノリクレバ、親類ハ勿論ニテ只一面ノ交リアル人マデモ、故先生ノ朋友ト名ノリテ、吾レコソ金錢ノ隠レガヲ買ヒ當テント櫛ノ齒ノ如クニ並ビ居ケリ。ヤガテ糶リ賣リヲ始メケルニ、或人ハ箆笥ノ中ニアラント考へ、或人ハ蒲團ノ中ナラント思ヒ、或人ハ屋敷ノ中ニ埋メタルナラント推量シテ思ヒ思ヒニ糶リ上ゲケレバ、家屋敷、家財皆尋常ノ價ノ三倍乃至十倍ニ賣レヌ。

コノ人ノ鄰ニ貧シキ指物師アリテ、常ニコノ

人ノ惠ミヲ受ケタリシガ、今日買ヒ手ノ中ニ交
 リテモ、價高キモノヲ買フベキ錢モ持タ子バ、只
 糶リ賣リノ賑ハシキヲ見物シナガエ、ザシモ親シカ
 リシ親類、朋友ガ其ノ人ノ死ヲ悲シム心ハナクテ、
 ヒタスラ金錢ニ心ヲ奪ハレタルコトヨト心ノ
 中ニ世ノ中ノ薄情ヲゾ歎キ居タリケル。

公賣モ終ハリト見エシ時ナキ、ノ畫像ノ額一
 枚蜘蛛ノ巢ニ包マレテ出デ來レリ。力カル
 物ハ誰レモ買ハントセザリケレバ、指物師心ニ
 思ヒケルヤウ、吾ガ恩人ノ畫像ヲ紙屑買ヒ、手

ニハ入レジ、吾レ買ヒ取りテ恩人ノ形見トナシ
 朝夕拜禮シテ、聊生前ノ惠ミヲ謝セントテ十錢
 五厘ニ糶リ上げテ買ヒ落トシケリ。

指物師ハ額ヲ家ニ持チ歸リテ上座ニ掛ケ置
 キ、毎日ノ禮ヲ盡クシレガ或日額ノ縁ノ少シ傷
 ミタルヲ見付ケテ、ミヅカラ修覆セントテ、其ノ
 縁ヲ取りハヅレケルニ、思ヒガケナキ事コソ出
 來タレ。畫像ノ裏ニ厚キ紙包ミアリ。開
 見レバ千圓ノ公債證書百枚ナリ。指物師ハア
 ラト驚キレガ、心ヲ定メテヨク見レバ一通ノ添

へ書アリ、其ノ文ニ曰ハク、

吾ガ遺財ハコノ画像ノ主ニ與ヘザルベカラズ、何トナレバコノ画像ヲ買フ人ハ吾レヲ思フコト最深クシテ、吾ガ照キ跡ヲ弔フ人ナレバナリ。吾レヲ思シ、吾レヲ弔フ人ハ吾ガ親友ナリ、吾ガ子ナリ。

指物師ハ直チニ役所ニ届ケ出デケルニ是レハ汝ガ正直ノ報イナレバ、汝ガ所有物ナルコト勿論ナリ、他人ハ決シテ争フコトヲ得ベカラズトゾ定メラレケル。

昔話シ。

吾レモ諸君モ幼カリシ時、父母ノ膝ニ在リテ、猿蟹ノ合戦、力チカチ山ノ仇討チ、桃太郎ノ鬼ガ島征伐ヲ聞キシコトアリキ。昔話シヲ聞クハ誠ニ樂シキ事ナリ。

諸君ハ十歳或ハ十一二歳ニシテ、唯四五年前ノ事ヲ知ルノミ。諸君ノ父母ハ諸君ヨリ遙ニ前ニ生マレシ故、二三十年前ノ事ヲ善ク知レリ。髮白ク腰曲ガレル老人ハ最古キ事ヲ知レリ。然レドモ人ハ生マレテ百年ヲ越ユルモノ甚少シ。

日本書紀 卷四
故ニ百年前ノ話シハ子供ニ語り傳ヘ、或ハ書籍ニ
記シテ置クノミ。諸君ハ後ニ歴史ヲ讀ミテ甚
古キ話シヲ多ク知ルナラシ。

楠正成

君ノ讀ミ給フハ何ノ書ゾヤ。是レ太平記
ノ第三卷ニシテ、今ヨリ五百年前ノ歴史ナリ。
ココニ甚感心スベキ話シアリ聞キ給ヘ。

コノ頃北條高時ト云フ惡人アリテ世ノ人ヲ
惱マシ苦シメタリ。コノ時ノ天皇ハ後醍醐天
皇ニシテ高時ヲ征伐シ給ヒシニ高時東國ノ兵

數十萬ヲ集メテ其ノ勢甚強カリケレバ、天皇ハ
京都ヲ出テテ、笠置ノ山ニ移リ給ヒキ。

其ノ頃河内ノ國金剛山ノ麓ニ楠正成ト云フ
者アリキ。天皇正成ノ智勇ヲ聞コレ召サシ、
勅使ヲ以テ正成ヲ召シ給ヒキ。正成取ル物モ
取リアヘズ、急キ皇居ニ參リケレバ、天皇中納言
藤原藤房ヲ以テ仰セケルハ高時ヲ征伐スル事
備一正成ヲ頼ミ思ボシ召スニ由リ、勅使ヲ立テラ
レシ處時刻ヲ移サズ馳セ參ル事御感淺カラズ。
抑如何ナル謀ヲ以テカ國賊ヲ亡ボシ、天下ヲ太

平ニスベキト。

正成畏マリテ申シケルハ高時近日ノ惡逆ハ誰レカコレヲ惡クザラン。此ノ時ニ當タリテ之ノ亡サンコト何ノ子細カ候フベキ。凡戦ヒノ勝負ハ智ト勇ノ二ツニ在リ。モレ勇ヲ以テ戦ハバ日本六十餘州ノ兵ヲ集メテ武藏相模兩國ニ對ストヒ勝ツコトヲ得難カラシ。モレ謀ヲ以テ争ハバ東國ノ兵欺クニ易クイテ恐ルルニ足ラズ。戦ヒノ習ヒニテ候ハバ一月ノ勝負ヲバ必ミレ御覽ドラルベカラズ。正成一一人イマ

ダ生キテ在リト聞コレ召サバ御心安ク思ホレ召サレ候ヘト頼モレク申シテ御前ヲ退キケリ。

僕ハ今コノ所ヲ讀ミテ思ハズ涙ヲ落トシタリ。正成身ヲ捨テテ日本ノ太平ヲ謀ル志レハ今更云フニモ及バ子ドモ僅ニ二三百人ノ大將ニアリナガラ天下ノ大事ヲ身ニ引キ受ケ正成一一人イマダ生キテ在リト聞コレ召サバト云ヒケル大勇ノ程コソ尊クモ亦羨マシケレ。

楠公楠母小楠公。

後醍醐天皇ノ御世ニ足利尊氏謀叛シ西國ノ



兵ヲ率井テ都ニ入ラントレケレバ天皇楠正成
 ニ詔シテ攝津ノ國ニ趣キテ尊氏ヲ征伐セシメ
 給ヒキ。正成思フヤウアリテ是レヲ最後ノ戰
 ヒト覺悟レケレバ往キテ攝津ノ國櫻井ノ驛ニ
 至リ、子正行ヲ召シテ戒メテ曰ヒシハ獅子子ヲ
 生ミテ三日ヲ經レバ之ヲ數千丈ノ石壁ヨリ投
 グ、其ノ子獅子ノ氣アレバ教ハザルニ劓子返リテ
 死セズト云ヘリ。况汝既ニ十歳ニ餘リ又、一言
 耳ニ留ラバ吾ガ教誠ニ違フコトナカレ。
 今度ノ戰ヒ實ニ天下ノ大事ナレバ、此ノ世ニ

テ汝ヲ見ルコト是レヲ限リト思フナリ。我レ
 死セバ天下ハ尊氏ノ物ト思フマシ。然リト云
 フトモ利ヲ貪リ、命ヲ惜レシ、敵ニ降参シテ父が多
 年ノ忠義ヲ汚スナヨ。一族徒黨ノ者一人モ生
 キ殘リテアランニハ、金剛山ノ城ニ籠モリテ再
 義兵ヲ舉グ君ノ御世ニノレ奉レ。汝ガ孝行之
 ニ過キタル事無レト。

カクラ正行ハ河内ニ返リ正成ハ湊川ニ討チ
 死ニレケレバ尊氏正成ノ忠勇ヲ感ジ其ノ首ヲ
 河内ニ送リキ。正行之ヲ見ルニ忍ビズ流ルル涙

ヲ押サ、テ一開ノ方ヘ往キケルヲ其ノ母恠ミテ
 跡ヨリ行キテ見レバ父ガ形見ノ短刀ヲ抜キ袴
 ノ腰ヲ推シ下ガテ自害セントレタリタリ。母
 ハ驚キ走り寄り正行ノ小腕ニ取り付キ涙ヲ流
 シテ戒メケルハ汝幼クトモ父ガ子ナラバカバ
 カリノ理ニ迷フベシヤ。父ノ汝ヲ櫻井ヨリ返
 シ給ヒシハ無キ跡ヲ弔ヘトニモ非ズ、腹ヲ切レ
 ト云フニモアラズ。父ハ運拙クシテ討チ死ニスト
 モ一族徒黨ノモノヲ扶持シ置キ今一度軍ヲ起コ
 シ、君ノ御世ニホシ奉レト云ヒシニアラズヤ。

汝遺言ヲ承リ返リテ我レニ告ゲタルガイツノ
 マニ忘レケルゾヤ。カクテハ君ノ御用ニ立ツ
 ベシトモ覺エズ。トテ泣ク泣ク刀ヲ奪ヒ取リケ
 リ。

正行ハ父ノ遺言、母ノ教訓ヲ心ニ深メ、肝ニ銘
 ジ、平日ノ戯レニモ、尊氏ヲ討ツマ子ヲナシ、年長
 ズルニ及ビテ屢敵軍ヲ破リ、父ニ劣ラヌ忠勇ノ
 大將トナリヌ。サレバコソ楠公、楠母、小楠公ト
 テ後ノ世マデノ語り草トセリ。

終

社会科

明治十九年二月十五日 版權免許
 同 二十年八月九日 校正届

著者

新潟縣士族

新保磐次

神田區末廣町十番地

東京府士族

原亮三郎

日本橋區本町三丁目十七番地

出版人

大賣捌所

大阪北久寶寺町四丁目
金港堂原亮三郎支店

岐阜

金港堂支店

大賣捌所

各府縣下代理大賣捌所

MAIS 20
4 5